# 長寿運動器疾患教育研究

# 1-1 構成員

# 平成29年3月31日現在

教授	人0	
病院教授	人0	•
准教授	人0	
病院准教授	人0	
講師(うち病院籍)	0人	(0人)
病院講師	人0	•
助教(うち病院籍)	0人	(0人)
診療助教	人0	•
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	2人	•
医員	人0	•
研修医	人0	•
特任研究員	人0	•
大学院学生(うち他講座から)	0人	(0人)
研究生	人0	•
外国人客員研究員	人0	•
技術職員(教務職員を含む)	人0	
その他(技術補佐員等)	人0	
숌 計	2人	•

# 1-2 教員の異動状況

戸川大輔、特任准教授、昇任年月日;2016年4月1日~現職 大江慎、特任助教、昇任年月日;2016年4月1日~現職

# 2 講座等が行っている研究・開発等

(1)研究・開発等のテーマ名

骨粗鬆症と健康関連QOLについての性別・年代別調査の研究

(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略

日本は超高齢社会となりこの対策として高齢者の自立、すなわち骨粗鬆症や健康関連QOLの維持が重要となる。

(3)前年度までの状況

(4) 当該年度内の進捗

本研究を2017年度の日本腰痛学会で発表した。

(5)翌年度の方針と予想

2017年6月にJournal of spine researchの日本腰痛学会特集号に論文が掲載予定

(1)研究・開発等のテーマ名

成人脊柱変形患者における術後矯正損失の原因

2┃ (2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略

高齢化社会と、脊椎手術進歩により成人脊柱変形の手術は増加傾向である。しかし、この術後の矯正損失の原因は明らかではない。

## 3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度	
	17編(10編)	
そのインパクトファクターの合計	11.929	
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編	
そのインパクトファクターの合計	0.000	
(3)総説数(うち和文のもの)	7編( 7編 )	
そのインパクトファクターの合計	0.000	
(4)著書数(うち和文のもの)	0編 ( 0編 )	
(5)症例報告数(うち和文のもの)	1編 ( 1編 )	
そのインパクトファクターの合計	0.000	

## (1) 原著論文

# A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.	IF
1.	Oe S, Yamato Y, Togawa D, Kurosu K, Mihara Y, Banno T, Yasuda T, Kobayasi S, Hasegawa T, Matsuyama Y; Preoperative T1 Slope More Than 40° as a Risk Factor of Correction Loss in Patients with Adult Spinal Deformity; Spine 41 (19) . E1168-1176,2017	2.480

論文数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.480

# B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.	IF	
1.	Banno T, <u>Togawa D</u> , Arima H, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Yasuda T, <u>Oe S</u> , Hoshino H, Matsuyama Y:The cohort study for the determination of reference values for spinopelvic parameters (T1 pelvic angle and global tilt) in elderly volunteers. Eur Spine J 25(11):3687-3693.	2.132	
2.	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Togawa D, <u>Oe S</u> , Mihara Y, Matsuyama Y:T1 Pelvic Angle Is a Useful Parameter for Postoperative Evaluation in Adult Spinal Deformity Patients. Spine 41(21):1641-1648, 2016.	2.439	
3.	Yamato Y, Hasegawa T, Kobayashi S, Yasuda T, <u>Togawa D,</u> Arima H, <u>Oe S</u> , Iida T, Matsumura A, Hosogane N, Matsumoto M, Matsuyama Y:Calculation of the Target Lumbar Lordosis Angle for Restoring an Optimal Pelvic Tilt in Elderly Patients with Adult Spinal Deformity. Spine 41(4): E211-217, 2016.	2.439	
4.	Arima H, Yamato Y, Hasegawa T, <u>Togawa D</u> , Kobayashi S, Yasuda T, Banno T, <u>Oe S</u> , Matsuyama Y: Discrepancy between Standing Posture and Sagittal Balance during Walking in Adult Spinal Deformity Patients: Spine 42(1):E25–E30, 2.439, 2017.	2.439	
5.	長谷川智彦, 大和 雄, 小林 祥, <u>戸川大輔</u> , 安田達也 <u>, 大江 慎,</u> 山田智裕, 中井慶一, 坂野友啓, 三原唯暉, 松山幸弘: 骨粗鬆症性椎体骨折後後彎症(OPK)の病態と治療戦略 骨粗鬆症性椎体骨折後後彎症(OPK)の病態と治療: 日整会誌 90(9), 595-599, 2016.	0.000	

6.	坂野友啓, 長谷川智彦, 大和 雄, 小林 祥 <u>, 戸川大輔, 大江 慎</u> , 三原唯暉, 松山幸弘: 成人脊柱変形Type別の 大腰筋・多裂筋面積の比較検討: J Spine Res 7(4), 837-840, 2016.	0.000
	後迫宏紀, 小林 祥, 長谷川智彦, 大和 雄, <u>戸川大輔</u> , 安田達也, 坂野友啓, <u>大江 慎,</u> 三原唯暉, 松山幸弘: 高齢者検診における側弯と健康関連QOLとの関係(TOEI study): J Spine Res 7(11), 1590-1593, 2016.	0.000
8.	大和 雄,長谷川智彦,戸川大輔,小林 祥,大江 慎,松山幸弘:成人脊柱変形に対するlateral lumbar interbody fusion (LLIF)の局所矯正の検討:中部整災誌 59(5), 959-960, 2016.	0.000
9.	大和 雄, 長谷川智彦, 小林 祥, 安田達也, <u>戸川大輔, 大江 慎,</u> 坂野友啓, 三原唯暉, 黒須健太, 松山幸弘: 成 人脊柱変形の手術的治療 骨盤傾斜を改善することがポイントである: J Spine Res 7(9), 1352-1355, 2016.	0.000
10.	長谷川智彦, 大和 雄, <u>戸川大輔</u> , 小林 祥 <u>, 大江 慎</u> , 松山幸弘,:【骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題 点】椎体骨折のある高齢脊柱変形(後彎)の治療: 整・災外59(7), 949-955, 2016.	0.000
	星野裕信, <u>戸川大輔</u> , 松山幸弘: 第8回(平成27年度) 旭化成研究助成プログラム(骨粗霧症QOL研究) 中山間 地域住民の運動器検診によるロコモティブシンドローム要因の解明と予防法の確立: 公益財団法人骨粗鬆症財 団研究助成報告集 ライフサイエンス出版株式会社 122-125,, 2017.	0.000
	論文数(B)小計 <u>11</u> うち和文 <u>7</u> IF小計	9.449
	C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの	
	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.	IF
	Yasuda T, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S <u>, Togawa D</u> , Banno T, Arima H, <u>Oe S</u> , Matsuyama Y:Relationship between Spinal Hemangioblastoma Location and Age. Asian Spine J 10(2):309-313,2016.	0.000
2.	Yasuda T, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Togawa D, Banno T, Arima H, Oe S, Matsuyama Y:Lumbosacral Junctional Failures After Long Spinal Fusion for Adult Spinal Deformity-Which Vertebra Is the Preferred Distal Instrumented Vertebra? Spine Deform 4(5):378-384, 2016.	0.000
3.	井出浩一郎 <u>, 戸川大輔</u> , 星野裕信, 松山幸弘:【骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点】TOEI study 椎体骨折罹患(椎体変形)とLocomo 25の相関: 整・災外59(7), 891-894, 2016.	0.000
4.	安田達也, 長谷川智彦, 大和 雄, 小林 祥, <u>戸川大輔, 大江 慎</u> , 松山幸弘: 成人脊柱変形に対しlong fusionを施行した後のロッド折損: 浜松医療センター学術誌10(1), 104-106, 2016.	0.000
	安田達也, 長谷川智彦, 大和 雄, 小林 祥, <u>戸川大輔</u> , 坂野友啓, <u>大江 慎</u> , 三原唯暉, 松山幸弘: 成人脊柱変形患者の体位による腰椎前彎角の変化 仰臥位と術中腹臥位で腰椎前彎角は近似する: J Spine Res 7(4), 834-836, 2016.	0.000
	ーニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0.000
	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 つ フクルス	0.000
		0.000
	(3)総説	0.000
		0.000
1.	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの	
2.	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7):890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社:36-43, 2016	IF
2.	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7):890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社:36-43, 2016 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡:頚椎部に生じた巨大.	IF 0.000
2. 3.	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7):890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社:36-43, 2016	IF 0.000 0.000
2. 3. 4.	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7): 890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社: 36-43, 2016 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大. 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡:海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016 大江 慎, 馬場 聡: 初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版、25-28, 2016	0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7):890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社:36-43, 2016 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡:頚椎部に生じた巨大. 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡:海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016 大江 恒 馬場 聡:初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例、見松健太郎、松山幸弘(編)脊	0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7): 890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社: 36-43, 2016 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大. 戸川大輔. 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016 大江 慎, 馬場 聡: 初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 25-28, 2016 大江 慎, 馬場 聡: 髄内海綿状血管腫で再出血を起こした1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016 大江 慎, 馬場 聡: 肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例、見松健太郎、松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3) 総説	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.  戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7): 890, 2016  戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社: 36-43, 2016  戸川大輔, 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大、 戸川大輔, 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡:海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016  太江 慎. 馬場 聡:初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 25-28, 2016  太江 慎. 馬場 聡:肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016  太江 慎. 馬場 聡:肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3) 総説	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.  戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7): 890, 2016  戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社: 36-43, 2016  戸川大輔, 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大、 戸川大輔, 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡:海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016  太江 慎. 馬場 聡:初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 25-28, 2016  太江 慎. 馬場 聡:肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016  太江 慎. 馬場 聡:肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.  戸川大輔:(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7):890, 2016  戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田大他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社:36-43, 2016  戸川大輔: 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大.  戸川大輔: 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016  太江 惶 馬場 聡: 初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 25-28, 2016  太江 惶 馬場 聡: 髄内海綿状血管腫で再出血を起こした1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016  太江 惶 馬場 聡: 肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 56-58, 2016  ※説数(A)小計 7 うち和文 7 IF小計  B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)  ※説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3) 終説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔: (企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7): 890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴. 宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社: 36-43, 2016 戸川大輔: 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大. 戸川大輔・有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016 太江 惶, 馬場 聡: 初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 25-28, 2016 太江 塩, 馬場 聡: 髄内海綿状血管腫で再出血を起こした1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016 太江 塩, 馬場 聡: 肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 56-58, 2016 総説数(A)小計 7 うち和文 7 IF小計 B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)総数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの 総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000
<ol> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>6.</li> </ol>	(3)総説 A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年. 戸川大輔(企画)特集: 骨粗鬆症性椎体骨折一治療の現状と問題点-超高齢社会の波を乗り越えるためには意識改革が必要. 整・災外59(7):890, 2016 戸川大輔: I. 固定術に欠かせない基本テクニック 移植骨母床作製(後側方, 椎体間)と各種人工骨の特徴.宗田 大 他(編) OS NEXUS No.6 脊椎固定術 これが基本テクニック メジカルビュー社:36-43, 2016 戸川大輔: 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 頚椎部に生じた巨大. 戸川大輔: 有馬秀幸, 松山幸弘, 馬場 聡: 海綿状血管腫による腫瘍内出血により両下肢完全麻痺となった1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 160-164, 2016 太正 慎. 馬場 聡:初回出血後に腫瘍摘出術を行った髄内海綿状血管腫の1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 25-28, 2016 太正 慎. 馬場 聡: 髄内海綿状血管腫で再出血を起こした1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016 太正 慎. 馬場 聡: 肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 29-32, 2016 太正 慎. 馬場 聡: 肺腺癌の転移性髄内腫瘍を発症した1例. 見松健太郎, 松山幸弘(編)脊髄腫瘍の臨床メディカ出版, 56-58, 2016 総説数(A)小計 7 うち和文 7 IF小計 B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの総説数(C)小計 0 5ち和文 0 IF小計	0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000 0.000

# B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

症例報告数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

# C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

	21	
	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁一終頁, 掲載年.	IF
1.	安田達也, 長谷川智彦, 大和 雄, 小林 祥, <u>戸川大輔, 大江 慎</u> , 松山幸弘: 成人脊柱変形に対しlong fusionを施行した後のロッド折損: 浜松医療センター学術誌10(1), 104-106, 2016.	0.000

症例報告数(C)小計 \_\_\_\_1 うち和文 \_\_\_\_1 IF小計 \_\_\_\_\_0.000

# 4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度	
特許等取得数(出願中含む)	0 件	

# 4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成28年度			
	件 数		金 額 (万円未満四捨五	入)
(1)科学研究費助成事業(文部科学省、 日本学術振興会)	0	件	0	万円
(2)厚生労働科学研究費	1	件	90	万円
(3)日本医療研究開発機構(AMED)によ る研究助成	1	件	90	万円
(4)科学技術振興機構(JST)による研究 助成	0	件	0	万円
(5)他政府機関による研究助成	0	件	0	万円
(6)財団助成金	0	件	0	万円
(7)受託研究または共同研究	0	件	0	万円
(8)奨学寄附金	0	件	0	万円

# (2)厚生労働科学研究費

	\	
1.	戸川大輔(分担者)長寿科学研究開発事業 「骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の   指針策定」90万円(継続) 代表者 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科整形外科学教   授 大川 淳	90万円

## (3)日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

1. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定、研究分担者	90万円
------------------------------------	------

# 6 大型プロジェクトの代表, 総括

# 7 学会活動

	(1)国際学会	(2)国内学会
1)基調講演・招待講演回数	1 件	20 件
2)シンポジウム発表数	0 件	2 件
3)学会座長回数	1 件	7 件
4)学会開催回数	0 件	1 件
5)学会役員等回数	1 件	8 件
6)一般演題発表数	8 件	

# (1)国際学会等開催·参加

# 1)国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Togawa D, Eng Hin Lee, Marc F. Swiontkowski: Issues in scholarly publication in orthopaedic surgery – how to get your 1 manuscript published why participate in the peer review process. Presented by the editorial board of the Journal of Bone & Joint Surgery. The 19th Asia Pacific Orthopaedic Association Congress, Melbourne, Australia,3月 2017.

#### 3)国際学会・会議等での座長

1. Togawa D: . SPINEWEEK 2016, Singapore, Singapore, 5月 2016.

## 5) 役職についている国際学会名とその役割

1 International Society of the Study of Lumbar Spine (ISSLS) Active Member

#### 6)一般発表

#### 6-1)口頭発表

Togawa D, Ide K, Hoshino H, Matsuyama Y: Toei study – relationship between vertebral compression fractures and health related quality of life investigated in elderly volunteer cohort study. 5th Fragility Fracture Network 2016, Roma, Italiana,9月 2016.

Togawa D, Banno T, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Yasuda T, Oe S, Mihara Y, Kurosu K, Matsuyama Y: Deteriorations of Sagittal Spinopelvic Parameters and Quality of Life of Elderly Volunteers: Analyses in Different Genders and Among Different Age Groups in Longitudinal Cohort Study. Scoliosis Research Society 51st Annual Meeting & Course, Prague, Czech Republic,9月 2016.

Oe S, Togawa D, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Banno T, Mihara Y, Kurosu K, Matusyama Y: The difference of spinal sagittal alignment and health—related QOL between mels and females with cervical deformity. Cervical spine research society 44th Annual Meeting, Toronto, Canada,12月 2016.

Oe S, Yamato Y, Togawa D, Hasegawa T, Kobayashi S, Banno T, Mihara Y, Kurosu K, Matsuyama Y: Preoperative T1 slope more than 40° is a cause of deteriorated C7 sagittal vertical axis in adult spinal deformity surgery: minimum 0f 2 years follow—up. Scoliosis Research Society 51st Annual Meeting & Course, Prague, Czech Republic, 9月 2016.

Togawa D, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Yasuda T, Oe S, Banno T, Mihara Y, Matsuyama Y: Postoperative Daily Activities After Long Corrective Fusion To Pelvis For Elderly Spinal Deformity. AAOS 2016 Annual Meeting, Orlando, FL, USA,3月 2016.

#### 6-2)ポスター発表

Oe S, Togawa D, Hasegawa T, Yamato Y, Yoshida G, Kobayashi S, Yasuda T, Banno T, Mihara Y, Matsuyama Y: Posture change by placing mirror in taking whole spine X-rays in standing position. 8th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific Sections (CSRS-AP), Kobe, Japan, 3月 2017.

Togawa D, Hasegawa T, Yamato Y, Kobayashi S, Yasuda T, Oe S, Banno T, Arima H, Mihara Y, Kurosu K, Matsuyama Y: 2. Cause and Rate of Revision Surgery for the Patients With Adult Spinal Deformity. SPINEWEEK 2016, Singapore, Singapore, 5月 2016.

Torikai E, Suzuki M, Matsuyama Y: Biological agent holiday therapy for rheumatoid arthritis in patients with clinical disease activity index remission. European League Against Rheumatism Annual Congress 2016, London, UK,6月 2016.

#### (2)国内学会の開催・参加

## 1)学会における特別講演・招待講演

|戸川大輔: 骨粗鬆症性椎体骨折の治療を改めて考える. 平成28年度浜松整形外科医会・総会, 浜松市.1月 2017.

2 戸川大輔: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術介入の意義. Medtronic スパインセミナー. 仙台市.2月 2017.

戸川大輔: ランチョンセミナー Balloon Kyphoplastyを考える一骨粗鬆症性椎体骨折治療の問題点. 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉市,4月 2016.

4. 大江 慎: 頸椎パラメータ(T1slope)不良例における成人脊柱変形手術の成績. 浜松整形外科医会, 浜松市,4月 2016.

戸川大輔: イブニングセミナー 椎体骨折と高齢者の全脊椎矢状面アライメントを考える-保存療法/BKP/脊柱変形再建一. 第5. 89回日本整形外科学会学術総会, 横浜市,5月 2016.

| 戸川大輔: いつまでも動ける体づくり~東栄町運動器健診でわかったこと~. 東栄町住民健診講演会, 北設楽郡東栄町,6月 3-12016

7.|戸川大輔: 椎体骨折予防のための骨粗鬆症に対する薬物治療. 第85回東海脊椎脊髄病研究学術集会, 名古屋市,6月 2016.

戸川大輔: 骨粗鬆症性椎体骨折の治療体系 一よりよい骨粗鬆症治療、椎体骨折治療とは. 川内地区骨粗鬆症学術講演会, 薩摩川内市,6月 2016.

9. |戸川大輔: 脊椎診療におけるX線画像の撮影とその意義. GEデジタルー般撮影セミナー 第7回TOMOの会, 東京都,6月9. | 2016.

10.|戸川大輔: 高齢者の脊椎診療-これからの脊椎変形・椎体骨折診療-. 第6回三重脊椎若手の会, 津市,6月 2016.

戸川大輔: AO Spine Advanced Symposium 名古屋 ~テーマ: 骨粗鬆症 ①椎体骨折評価法(SQ法、QM法、MRIなど) ② 11. 椎体形成術. AO Spine Advance Seminar, 名古屋市,6月 2016.

戸川大輔: 溶骨性脊椎腫瘍に対するBalloon Kyphoplasty. 第1回転移性脊椎腫瘍における椎体骨折セミナー in 西九州, 佐世12. 保市.7月 2016.

戸川大輔: Balloon Kyphoplasty-骨粗鬆症性椎体骨折に対する治療を再考しよう-. 第312回東北労災病院整形外科談話13. 会. 仙台市,7月 2016.

14. 戸川大輔: Balloon Kyphoplastyの現況. 椎体形成術の現況を語る会, 名古屋市,8月 2016.

15 戸川大輔: 脊椎から見た股関節・下肢アライメント. 第4回SKJCRセミナー, 鎌倉市,10月 2016.

戸川大輔: 最新のインストゥルメントの紹介. 若手医師と看護師のためのインストゥルメンテーションセミナー, 長崎市,10月 16. 2016.

- 戸川大輔: 椎体骨折治療への意識改革一骨粗鬆症治療から脊柱変形矯正まで. 第2回広島脊椎カンファレンス, 広島市,12月 17. 2016.
- 18 戸川大輔: 骨粗鬆症性椎体骨折とそれによる脊柱変形の治療. Nagoya Bone Conference, 名古屋市,12月 2016.
- 19. 戸川大輔: 骨粗鬆症性椎体骨折と高齢脊柱変形の治療. 第13回東濃・可茂脊椎セミナー, 多治見市,2月 2017.
- 戸川大輔: 骨粗鬆症性椎体骨折の治療はこのままでよいのか?:保存療法・椎体形成術・除圧再建・脊柱変形治療.第12回20.北勢整形外科懇話会,四日市市,3月2017.

#### 2)シンポジウム発表

- 戸川大輔, 佐藤義弘, 松山幸弘: 骨粗鬆症性椎体骨折診療におけるBalloon Kyphoplastyの適応範囲. 第89回日本整形外科<sup>1.</sup>|学会学術総会, 横浜市,5月 2016.
- 2 戸川大輔: 多発性骨髄腫に対する経皮的椎体形成術. 第41回日本骨髄腫学会学術総会, 徳島市,5月 2016.

#### 3)座長をした学会名

- 1. 戸川大輔: 第126回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 浜松市,4月 2016.
- 2. 戸川大輔: . 第45回日本脊椎脊髄病学会, 千葉市,4月 2016.
- 3 戸川大輔: 第89回日本整形外科学会学術総会, 横浜市,5月 2016.
- 戸川大輔, 佐藤義弘, 松山幸弘: 骨粗鬆症性椎体骨折診療におけるBalloon Kyphoplastyの適応範囲. 第89回日本整形外科4. 学会学術総会, 横浜市,5月 2016.
- 5 戸川大輔: 第12回椎体形成術研究会,京都市,8月 2016.
- 6. 戸川大輔: 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 長崎市,10月 2016.
- 大江 慎, 戸川大輔, 長谷川智彦, 大和 雄, 吉田 剛, 大江 慎, 坂野友啓, 三原唯暉, 松山幸弘: T1 slope40度以上である成7. 人脊柱変形患者の胸椎代償性変化の有無による術後成績の比較. 第7回日本成人脊柱変形学会, 東京都,3月 2017.

#### 4)主催した学会名

1. 第12回椎体形成術研究会、(京都)、2016年8月、50人

#### 5)役職についている国内学会名とその役割

- 1 日本脊椎脊髄病学会 指導医 評議員
- 2. 日本脊椎脊髄病学会 新技術評価検証委員会 委員
- 3. 日本脊椎脊髄病学会 技術認委員会 委員
- 4 椎体骨折評価委員会 日本脊椎脊髄病学会代表委員
- 5. 骨粗鬆症性脊椎骨折研究会 世話人
- 6 椎体形成術研究会 世話人
- 7 IVR Forum 世話人
- 8. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外 国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1 件	0 件

#### (1)外国の学術雑誌の編集

1. Journal of Bone and Joint Surgery、Editorial Board、Advisory Board、PubMed/Medline登録有、インパクトファクター有

## (3)国内外の英文雑誌のレフリー

- 1. (国外) Journal of Bone and Joint Surgery 3本
- 2. (国外) Spine Surgery and Related Research 2回
- 3. (国外) SPINE7本
- 4 (国外)Journal of Orthopaedic Science12回
- (国内誌)Journal of Spine Research 2回

# 9 共同研究の実施状況

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	平成28年度	
(1)国際共同研究	0 件	
(2)国内共同研究	0 件	
(3)学内共同研究	0 件	

# 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

# 11 受 賞

- 12 新聞,雑誌,インターネット等による報道
- 13 その他の業績